

若手職員向け超入門！研究者と学術情報流通

井上 昌彦（関西学院大学 図書館 運営課 課長）

講師略歴

図書館情報大学卒業、大阪市立大学大学院 創造都市研究科 前期課程修了（都市情報学）。就任以来、大学図書館・短期大学図書館・研究推進社会連携機構に配属される。これまでの担当業務から、学術情報流通の変容と今後のあり方、それを通じての研究者支援について、強い関心を持つ。

プログラム概要

「オープンアクセス／オープンサイエンス」、「科研費」、「査読」、「電子ジャーナル」、「ハゲタカジャーナル」、「インパクトファクター」…。若手職員の皆さん、これらをどれくらいご存じでしょうか？

これから研究者を支援していくためには、まず研究者を取り巻く世界について知ることが大切です。例えば 2025 年度新規公募分から、公的資金による学術論文の著者最終稿・バックデータ掲載を義務化されることが検討されていますが、それらに対応するためには一定の予備知識が必要です。

研究者を取り巻く世界は、ドラスティックに変化しています。研究環境とともに、研究者の知的生産物である学術情報（論文等）も、そのあり方を劇的に変えています。

本プログラムでは以下のポイントを通じ、研究者を取り巻く世界と今後の支援のあり方について考えます。

<3つのポイント>

- ・研究環境の変化
- ・学術情報流通の変化
- ・大学（とりわけ図書館）の果たすべき役割

準備物・事前課題

特になし

主な受講対象者

大学職員。特に本プログラム内容について、業務上接する機会の少ない一般職・若手を歓迎します（大学図書館員も歓迎）。

大学職員向けに基礎からゆっくりと話しますので、教員や研究支援に携わる職員など、本テーマに関する基礎的な知見を有する方や当事者は、受講する必要がありません。

到達目標

1. 研究環境と学術情報流通の変化を通して、研究者を取り巻く世界を理解すること。
2. 大学（図書館）の果たすべき役割や方向性を、イメージできること。
3. 自分なりの問題意識や関心を持ち、長期的に研究者に寄り添う意識を強化すること。